

第 22 回 未来 からの留学生

報告書

香川大学教育学部

目次

第 22 回 未来からの留学生 を終えて.....	3
1. みんな大好き！シャボン玉.....	7
2. さるとかにのおはなし.....	8
3. あなたもソリスト！！演奏会をしよう♪.....	9
4. 体感してみよう！ 和歌の美しさを.....	10
5. わくわく！お遍路ワールド.....	11
6. くうきであそぼう.....	12
7. 『Travel Around the World』.....	13
8. 逆さの世界で段ボール迷路～トリックアートもあるよ～.....	14
9. カラフルボールを作ろう!!.....	15
10. 夢化学 2I in Kagawa.....	16
11. おもしろ算数・数学教室 ～図形の変身！～.....	17
12. バルーンアドベンチャー.....	18
13. 世界に一つだけの新しい動物を作ろう.....	19
14. 飛ぶタネで遊んでみよう！.....	20
15. 固まる樹脂で「アクセサリ」を作ろう.....	21
16. 図形の不思議さ.....	22
17. 折り紙マンとゆかいな紙々.....	23
18. マシュマロの不思議.....	24
19. おはなしのくに 2023.....	25
20. 運動あそびの学校.....	26
21. 教育学部 SDGs 紹介.....	27
22. 紙カップワールド.....	28
23. 太陽黒点を見てみよう.....	29
24. 模型で見る四国・香川の鉄道.....	30

第22回 未来からの留学生 を終えて

実行委員長 神野幸隆

この度、第22回未来からの留学生を令和5年10月8日（日）に実施致しました。新型コロナウイルス感染症の対応を引き継ぎ、事前の完全予約制、午後のみの実施として時間を短くする等の対策を講じながらの実施となりました。事前予約では、1000名のみなさまから申し込みをいただきました。その中から約350名のみなさまに予約確定メールをお送りさせていただき、当日は約800名の地域のみなさまにご参加いただきました。地域のみなさまから数多くのお申し込みをいただきながら、すべてのみなさまのご期待に沿えず大変申し訳ありませんでした。この場を借りてお詫び申し上げます。

この未来からの留学生は、2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により中止され、昨年度の第21回から復活となりました。「教育学部フェスティバル」と銘打つ本事業は、大学を地域に公開することにより、本学部と地域を繋ぐ活動として大きな目的をもつ一方、活動の企画や運営を通じて学生自身が子どもとの接し方を学ぶという目的を併せもっております。各領域からの報告には、企画・実践・振り返りを通した学びの成果や、子どもとのかかわり方への気づき等に関する学生の記述であふれています。これらの記述は、本事業が後者の目的をはたしていることを示しています。本報告書をお読みいただければ、学生の学びの姿とその成長を実感いただけるものと思っております。

最後に本事業は、香川県教育委員会のご後援を受けて実施され、教育学部事務職員、各領域担当教員ほか、多数の皆様によるご協力のもと実施されました。本年度の活動の実施に関しまして、多方面からご尽力頂きましたことに深く感謝いたします。

本年度のお申込者数が延べ1000名以上となっている状況から、地域のみなさまから本学への大きな期待を感じております。地域のみなさまのご期待に沿える大学となれるよう、今後も大学職員一同努力してまいります。どうぞ来年度以降の活動につきましても変わらぬご理解・ご支援を賜りますようお願い致します。

第22回

みらい

りゅうがくせい

未来からの留学生



教育学部フェスティバル in 香大

令和5年10月8日(日)

申込方法：下掲のQRコードより



受付： 12時30分～

会場： 香川大学教育学部(幸町北キャンパス)

駐車場がございませんので自家用車での来校はご遠慮ください。

主催： 香川大学教育学部 / 後援：香川県教育委員会

問合せ：香川大学幸町地区統合事務センター事務課(教育学部担当)

087-832-1405 (TEL)

ビジュアルデザイン：神原みちる

■ 未来からの留学生について

香川大学教育学部では、未来の「アーティスト」や「科学者」、「学校の先生」などを夢見るみなさんが、いろいろな体験を通して大学のよさを知るための体験入学を企画しました。大学生のお兄さん、お姉さんたちと一緒に、楽しい時間を過ごしてみませんか？ご参加お待ちしております。事前申込型講座はホームページから申し込んでください。 ※申込期間：9/1(金)～9/21(木)

高校生とその保護者のための入試相談会（13：00～15：00、事前申込不要）も同時開催しています。

事前申込型講座一覧

受付開始 12:30

1時間目 13:00～13:45 / 2時間目 14:05～14:50



※事前に申し込んで当選した人だけが参加できるよ。時間に遅れないように来てね！

講座番号	時間	講座名	内 容	対象・担当・注意事項
1		みんな大好き！シャボン玉	シャボン玉やシャボン玉版画で遊んだりして一緒に楽しもう！	幼・小1～6、40名。吉川暢子、幼児教育コース学生。服が濡れたり、汚れたりする可能性があります。また、タオル等をご持参ください。
2		さるとかにのおはなし	さるとかに合戦の劇が見れるお劇の後はとびおさんをつくらしてみよう！	幼・小1～2、30名。吉川暢子、幼児教育コース学生
3		あなたもソリスト!! コンサートしよう！	あなたの大好きな曲をコンサートで演奏しませんか？大学生も楽しい曲を演奏するので、コンサートを聴きにきてね！	小1～6、1組 3分、7組。青山夕夏、音楽領域学生。ピアノ以外の演奏楽器はご持参ください。
4-1		体感してみよう！	日本の誇る伝統文化である百人一首、「坊主めくり」や「恵平合戦」を体験して素晴らしい日本の歴史を感じてみませんか？ルールも簡単なので気軽に参加できます！	小1～6、各20名。古橋紀宏、国語領域学生
4-2		和歌の美しさを		
5-1		ワクワクお遊路ワールド	お遊路の旗について知り、ちよっぴり体験してみよう！	小学生以上、各30名。守田透人、社会領域学生
5-2		第1回早押しお遊路クイズ大会！		
6-1		くうきで あそぼう	生活総合は空気をテーマに紙飛行機、空気砲、シャボン玉を行います。普段できないことを身近な空気を使って体験します。	幼・小1～6、各10名。吉澤舞理、生活・総合領域学生
6-2				
7		Travel Around the World —世界中を旅しよう！クイズ	スポーツ・服・食べ物などのクイズを英語で楽しみよう！英語で世界中を体験しよう！	小3～6、25名。ポール・パテン、英語領域学生
8-1		逆さの世界でダンボール迷路		
8-2		～トリックアートもあるよ～	逆さメガネをかけて、ダンボール迷路に挑戦しよう！	小1～6、各20名。岡田 聡、心理領域学生
9		カラフルボールをつくろう!!	あたら、スライムがボールになっちゃった。なんでだろう？	小1～6、15組（保護者を含めて1組：2～3名）。藤原 渉、理科領域学生
10-1		夢化学21 in Kagawa	紙石につく不思議な液体やブニブニボールすくいをしてあそぼう。化学の日加/ラジや元素記号カルタなどの展示もあるよ。	幼・小1～6、各12名。高木由美子、日本化学会中国四国支部主催行事とのコラボ企画
10-2				
11		おもしろ算数・数学教室	はさみとりのりを用いて、止さるえないで図形を变身させます。算数が好きな人も知らない人も、みんなでいっしょに算数を楽しみましょう。	小学4～6年生以上（ただし、低学年は保護者同伴で可）、30名。杉野真矢、数学領域学生。のり、はさみ、もどし、えんぴつをご持参ください。
12		バルーンアドベンチャー	風船を使っていろいろなものを作ってみよう。みんなでバルーンアートの世界へ冒険に出かけよう！	小1～6、20名。小方朋子、特別支援教育領域学生
13		世界に一つだけの新しい動物を作ろう！	いろいろな色や道具を使ってモダンテクニックで遊ぼう！	小1～6、12名。尹 智博、美術領域学生。汚れてもよい服装でおこしください。
14-1		飛ぶタネで遊んでみよう!!	植物のタネを折り紙で作って飛ぶ様子を実際に見てみよう！どんな風に飛ぶかな？	小1～6、各16組（保護者を含めて1組：2～3名）。藤原 渉、理科領域学生
14-2				
15-1		固まる樹脂で「アクセサリ」を作ろう	光硬化樹脂を使って可愛いアクセサリを作ってみよう。	小1～6（低学年は保護者同伴）、各10名。黒田 悠、技術領域学生
15-2				
16		図形の不思議さ	質問図から組み立てて正四面体、正十二面体など3種類の立体を作ります。そして、それぞれの頂点、辺、面の個数を数えて表に記入し、その関係を明らかにします。	幼・小1～6、10名。四ツ谷直仁、数学領域学生。筆記用具、消しゴム、セロテープ（またはのり）をご持参ください。
17		折り紙マンとゆかいな紙々	折り紙マンといっしょに、折り紙を折って切っていろいろな図形をつくろう。	小1～6、10名。高野智見、数学領域学生。はさみをご持参ください。
18		マシュマロの不思議	溶かしたり、お菓子を作ったりして、マシュマロの不思議さをさがそう。	小5～6、8名。町五月、家庭領域学生。持参物：上靴、筆記用具、エプロン。高校生、保護者の方の入場はできません。
19-1		おはなしの国2023	おはなしの国へようこそ！今日のおはなしは「くねくねのくねくね」私たちと一緒に絵本の世界を覗いてみよう！	幼・小1～2、各25名。櫻井佳樹、教育領域学生
19-2				
20-1		うんどうあそびの学校	おねえさん・おにいさんが考えたあそびをしながら、みんなといっしょに体育館を走り回ろう！	小1～6、各30名。上野耕平、保健体育領域学生。体育館シューズをご持参ください。
20-2				

※上記講座に当選して大学に来てくれた幼児・児童のみなさんは前後の空き時間でいつでも下記の4つに参加できるよ！

講座番号	時間	講座名	内 容	対象・担当・注意事項
21	13:00～14:50	教育学部SDGs活動紹介	教育学部教員・学生が関わっている SDGs 活動の紹介。自由に立ち寄って見てね。	当選した幼児・児童はどなたでも見学可能です。高木由美子
22	13:00～14:50	紙コップワールド	10,000個の紙コップをつかって、みんなで一緒に遊ぼう！	当選した幼児・児童はどなたでも参加可能です。吉川暢子
23	13:00～14:50	太陽黒点を見てみよう！	普段は目にしない太陽ですが、最近、太陽の黒点が増えていそう。本気かどうか、見てみましょう。	当選した幼児・児童はどなたでも見学可能です。松村雅文・雨天・曇天の場合は中止します。
24	13:00～14:50	模型で見る四国の鉄道	1/80の鉄道模型を展示・走行します。	当選した幼児・児童はどなたでも見学可能です。黒田 悠

※当日午前7：00に警報が発令されている場合や新型コロナウイルス感染症の感染拡大の可能性がある場合には、対面での実施を中止します。

詳しくは、表面のQRコードから「未来からの留学生」ホームページをご確認ください。

※ご来場のみなさまの当日の様子を写真・動画撮影し、事業報告資料や本学広報資料等に活用させていただく場合があります。ご了承ください。



各講座の報告

1. みんな大好き！シャボン玉

幼児教育コース学生 担当教員：吉川暢子先生



今年はシャボン玉の講座を開き、室内で「シャボン玉版画」、戸外で様々な道具を用意してシャボン玉を楽しみました。途中、雨に降られる場面もありましたが最後まで子どもたちも「帰りたくない、まだしたい！」と泣くほどに楽しんでいました。

【学生の感想】

戸外で行ったシャボン玉では、大きなシャボン玉や小さなシャボン玉が作れるよう、様々な大きさの道具を用意しました。また、子どもたちの「これどんなんができるかな？」という声から、星形や四角の枠なども用意しておくことで、どのような形のシャボン玉ができるのかというワクワク感も感じられていたのではないかと思います。シャボン玉はできるだけ割れにくいように液体を事前に用意し寝かせておくなど工夫しました。子どもたちがシャボン玉をととても楽しんでいたので、シャボン液の作り方を保護者に聞かれる場面も多く、自由研究でやってみたいという声も聞かれました。



このイベントでは、楽しむだけではなく学びもありました。それは、あらかじめ子ども

の姿を予想し、準備物を用意しておくことの大事さです。これによって、子どもたちが材料不足で楽しめないということが起こりにくいと感じました。それと同時に、予想した姿からあえて準備しないものもあることによって子どもたちが工夫して遊ぶ楽しさも感じやすいのではないかと思います。

幼児教育コース3年

小野和佳奈



2. さるとかにのおはなし

幼児教育コース学生 担当教員 吉川暢子先生



毎年恒例だった人形劇と工作の講座を去年に引き続き開講しました。さるとかにのおはなしの人形劇では子どもたちも一体となって楽しみました。工作も自分だけの作品を作ることができ、楽しんでいる様子でした。

〈学生からのコメント〉

さるとかにのおはなしの人形劇では劇中に歌を取り入れたり、効果音を活用したりして子どもたちがさるとかにのおはなしの世界観に引き込まれるように工夫しました。劇に集中している子どもたちの様子が見られ、嬉しかったです。

工作では、顔やしっぽを自由に作って、輪ゴムで飛び跳ねる「ジャンピングおさるさん」を作りました。さるの顔だけでなく、人間の顔を描いている子もいて個性あふれる作品でした。子どもたち同士でジャンプを競う場面も見られ、時間いっぱい楽しんでくれていました。

当日はあいにくの雨でしたがたくさんの子どもたちが集まってくれました。子どもたちも初めは緊張している様子でしたが、だんだんと笑顔が見られ私たちも楽しい時間を過ごすことができました。

この経験を活かし、今後の活動に繋げていきたいです。



幼児教育コース 2年
佐々木 陽奈子 柴田 琴音

3. あなたもソリスト！！演奏会をしよう♪

担当学生：音楽領域

担当教員：青山 夕夏先生

本講義は、音楽を通じて学年や年齢関係なく関わりを持ち、交流の場を作ること为目标に開講した。今回このようなコンサートを行うのは初の試みだった為、運営から内容までイメージがつきにくかったように思う。しかし、事前に予想を超える10組の応募が集まった。その中から抽選をし、最終的に7組の児童保護者が集まった結果、大成功で幕を閉じることができた。

前半の講義では、児童1人に対し、学生1～2人が付き、各レッスン室にて練習を行った。その際学生は、「保護者の前でどのように児童と接するのが良いのか。」また、「どのような対応がふさわしいのか。」という事を考えながら慎重に交流していた。だが、時間が経つにつれて、親しく話している姿や暖かく見守る姿が見られた。

後半の講義では、児童と学生によるコンサートを行った。多くの方が見守り、緊張する中、演奏する様子が見られた。普段人前で演奏する機会多くないだろう。だからこそ、他者に聴かせることで芽生える様々な気持ちを感じることができたと思う。また、観客と演奏者両方の立場で参加できたことは非常に良かったと思う。自分の演奏を聴いてもらえて嬉しい気持ちや達成感を感じるだけでなく、学生の管楽器演奏や、同年代の子演奏を聴き刺激になり、有意義な時間になったと感じた。

最後に、実際に体験をした児童の保護者の方から、このようなお礼のメールをいただいた。「学生の皆様にも、本当によくしていただき、とても気持ちよく過ごすことができました。娘も本番の動画を見て喜んでいました。貴重な体験をありがとうございました。学生の皆様の演奏も本格的で、とても良いイベントだなと思いました。」実際に保護者の方からの感想を受け取り、音楽で繋がるという目標を達成できたように思う。学生の中でも、「緊張しながらも思い思いに演奏する姿をみて、音楽に触れることで養われる感性を学ぶことができた。」という声を聞いた。児童と関わるうえで大切なことを再認識できたのではないかと思う。今回の未来からの留学生は、短い準備期間の中で行った。今回感じた反省を来年に活かしてさらに良いイベントにしたい。(音楽領域二年生 中村汐里)



4. 体感してみよう！ 和歌の美しさを

担当学生：相澤咲希・釜野紗良・假屋崎桜・佐藤光桜・松尾知咲希・三好大雅
池上凌雅・香川ほのみ・辻涼香・土田昇龍・西谷千吏乙

担当教員：国語領域 古橋 紀宏先生

国語領域は、平安時代から日本に伝わる「百人一首」をテーマに421講義室で開講した。小学生にとっては学校外で触れる機会の少ない和歌を題材とするゲームを通じて、楽しさ・親しみを感じ、伝統的な日本文化に少しでも興味をもってもらえるように活動を計画した。

本講座の活動は「源平合戦」を行うグループと「坊主めくり」を行うグループの2つに分かれて行った。しかし、あいにくの雨天もあいまって、事前に参加の申し込みをいただいた人数よりも少なかったため、1時間目・2時間目ともに、どちらのグループも大学生が子どもたちに混ざって活動することとなった。

《源平合戦》

最初子どもたちは緊張している様子だったが、ゲームが始まると集中して札を取ろうとし、札が取れると嬉しそうにしている様子も見受けられた。また、保護者の方の中には子どもたちと一緒に読んで読み上げられている札を探し、子どもたちも大学生も札が見つからなくて困っているときに「このあたりにあるぞ」と声をかけてサポートし、活動を楽しまれている方もいた。

《坊主めくり》

「源平合戦」同様、子どもたちは最初こそ緊張している様子だった。しかし、ゲームが進むにつれて子どもたちもだんだんルールを理解してきて、天皇札が出ると「やったあ！」と喜ぶ様子を見せたり、大学生と子どもの間だけでなく子どもたち同士の会話も生まれたりしていた。

また、「坊主めくり」という遊びについては基本ルールに加えてローカルルールが多く存在する。そのため、「どのルールをどこまで取り入れるべきか」、「多すぎるとかえって子どもたちを混乱させてしまうかもしれない」と学生たちの間で模索し、前日まで相談や試行を重ねた。



本講座では予想人数よりも参加者は少なかったが、だからこそ学生が子どもたちとともにゲームへ参加し、彼ら・彼女らの反応をより共感しながら間近で観察することができた。加えて、前日の準備をする際にも子どもたちに危険がないように椅子や机の配置を考えたり、来てくれた子どもがまず雰囲気から楽しめるように折り紙などで装飾したりした。

それを踏まえて、今回の未来留では「子どもたちがどう感じるか」をいつも以上に思案し、当日は学生にとっても非常に有意義な時間になったと考えている。

5. わくわく！お遍路ワールド

担当学生：社会領域

担当教員：守田逸人先生

本講座は、世界遺産登録を目指す四国を誇る文化である「四国遍路」について、子どもから大人まで幅広い世代に興味や関心を持って頂くことを目標に開講した。

前半は、「四国遍路」について興味や関心を持って頂けるように「四国遍路」に関する座学を行った。今年は、子どもたちの疑問が自然とつながるように去年のスライドを分かりやすく楽しいものに作り直した上に、「四国遍路」にゆかりのある空海(弘法大師)に関してもスライドに入れ込むことで、「四国遍路」についてより詳しく学んでもらえるように工夫を施した。さらに座学がただ説明するだけにならないようにクイズを所々挟んだり、アドリブによる劇を挟んだり、お遍路さんをみんなで呼んだりして楽しく学べるようにした。実際に、子どもたちだけでなく保護者の方や高校生にも「四国遍路」について楽しんで学んで頂けた。



後半は、座学の復習と「四国遍路」の豆知識の学習を兼ねてクイズを行った。問題文と解説の校閲を繰り返し、子どもたちが「四国遍路」について正しく学べるように細心の注意を払った。また、挙手ではなく番号や記号を振った御札(四国遍路の納札を意識)を挙げてもらったり、効果音を入れたりしてクイズを楽しめるような工夫を施した。クイズの中には難しい問題もあったが、子どもたちは保護者の方と相談したり、自分で考えたりして頑張って答えていた。また、子どもたちは座学についてしっかり覚えていて、復習問題でも全員正解していた。

クイズの後にはお遍路さんの衣装を着る時間を設けて写真撮影を行った。子どもたちは嬉しそうに衣装に袖を通し、お遍路さんになりきっていた。劇中のお遍路さん役の学生と写真撮影をしている子どももいて、思う存分楽しんでもらえたことを実感できた。また、参加者には学生が今年のスライドに合わせて作り直したクロスワードを配布し、帰宅後も家族で「四国遍路」について考え、楽しんで頂けるようにした。帰る前に感想を一言ずつ書いて頂いたが、「楽しかった」「知らないことを知れてうれしかった」「88カ所めぐってみたいくなった」などと前向きなコメントが多く、講座を開講してよかったと思える1日だった。

(文責：社会領域2年生・玄馬久那愛)



6. くうきであそぼう

担当学生：生活・総合領域

担当学生：長松倫花・中尾麗美・葛西麻乃・大久保衣純・南小雪・木内ひなた・
四海沙也加・二宮汀・廣本凜香・青井円花・山岡亮斗・深川保乃花

担当教員：吉澤樹理先生

本講座は、身近にあるが普段あまり意識することのない「空気」について、参加者により身近に感じてもらい、身近にあるものでも工夫次第で楽しむことができることを知ってもらうことを目標に開講した。子どもだけでなく、保護者の方にも楽しんで参加していただくことができた。

講座内で「しゃぼん玉」「紙飛行機」「空気砲」の三つのブースに分かれ、参加者が自由に興味のあるブースを体験できる形式で開催した。

生活・総合領域の学生として、生活科に興味を持ってもらったり、身近にあるものを使って生活をより楽しく、豊かなものにしたりするためにはどうすればよいのかを考えた。

また、針金や洗剤、机など、身近にあるが使い方に注意が必要なものも使用したため、どのようにすれば安全に活動してもらうことができるのか、本番直前まで試行錯誤した。

準備段階では一番不安要素の多かったしゃぼん玉では、最初は膜が張りにくかったり、すぐにはじけてしまったりしていたが、どうすればだれでも簡単にしゃぼん玉を作ることができるかを考え、工夫することで、楽しく体験してもらうことができた。

また、紙飛行機や空気砲では、どうすればもっと遠くまで飛ばすことができるのか、どうすればより多くの的を空気砲によって倒すことができるのかを子どもたち自身が自ら考え、工夫することでより達成感を得ることができたと考える。

子どもと関わる機会が少ない学生もいる中で、「未来からの留学生」の開催によって、子どもたちについて真剣に考え、話し合い、協力するという貴重な経験をすることができた。今回の「未来からの留学生」の活動は、今後の教育に携わる活動のモチベーションや、学生同士の連帯感を高めるきっかけになったと考える。



(文責：生活・総合領域二年生 長松倫花)

7. 『Travel Around the World』

担当学生：新谷咲乃・岡部和可菜・富田さくら・林香音瑠・伏見桜・宮内大輝・
村上愛奈・荒川空・宇藤佳祐・小泉亮介・桜木優希・靱井良哉・山田壮馬
担当教員：英語領域 ポール・バテン先生

今年度は小学校3年生から6年生を対象とした『Travel Around the World』を実施した。外国についての知識を付けてもらうとともに、興味や関心を持ってもらえることを目的とした。楽しく学んでもらいたいと考え、クイズを作成したり、クロスワードを行ったりと、単にクイズを解くのではなく、楽しみながら解いてもらうことも大切にした。



参加した小学生は20人ほどであり、事前にグループ分けをしておき、グループの人と協力して問題を解いてもらうようにした。全体の始めに大学生も含め、グループ内での自己紹介を行った。日本語・英語はどちらでもよいことと設定し、大学生を中心に子供たちの緊張をほぐした。そして、どの順路でクイズを解いていくか、クロスワードについての説明をした後、実際にクイズを解いてもらった。各ブースに大学生がついており、小学生のサポートや解説などをした。大学生は、小学生とのコミュニケーションを楽しみながらクイズを出題・解説している様子が見受けられた。小学生もクイズやクロスワードに一生懸命取り組む姿が見られた。

この活動を通して得られたことは、やりがいだ。バテン先生や代表者をはじめとして、クイズやクロスワードの作成や装飾など、時間をかけて準備した。未来からの留学生当日は、45分間という短い時間だったが、子どもたちが一生懸命クイズを解き、楽しんでもらっている様子が見られた。教職を目指す私たちにとって、子どもたちのために準備し、喜んでもらえ、やりがいを感じることできた貴重な経験となった。文責：英語領域2年生岡部和可菜



『世界旅行』ということで、アジア・北南米・オセアニア・アフリカ・ヨーロッパの5ブースに分かれ、それぞれの地域でクイズを作成した。クイズの出題方式については、問題の難易度に合わせて選択問題にしたりヒントを出したりなどの工夫をした。そして、クイズだけでなく、スタンプラリーやクロスワードも行った。



8. 逆さの世界で段ボール迷路～トリックアートもあるよ～

心理領域

市川陽菜 岡友花 奥西勇輝 金井優 佐々木琉花 高原千尋 坪田晴香
安西登紀 桑原桃子 高重晴基 篠原鈴奈 谷奏美 阿部綾奈
担当教員 岡田 涼先生



私たち心理領域は1つの教室いっぱいを使って段ボール迷路を作り、その中に逆さメガネを体験することができるブースを作った。子どもたちが遊びの中で楽しみながら、見ることと身体を動かすことの不思議な関係について考える機会を与える、心理領域らしい講座を開設することができたのではないかと思います。

準備は短時間集中で行った。様々に意見を出し合いながらそれぞれができることを考え、テキパキと動くことができたことは評価できると思う。また、迷路に隠し扉をつけるなど子どもたちが楽しめるような工夫を随所に入れたことも評価できると考える。

当日は、迷路の係と迷路の順番を待つ部屋の係とに分かれて子どもたちと関わった。両方の部屋で、学生と子どもたちの温かいふれあいを見ることができた。子どもたちの様子を述べると、迷路と共に逆さメガネの体験を楽しんでいる子どもたちの姿が見られた。また、迷路の順番を待つ時間にも、折り紙や紙飛行機、絵しりとりなどで学生と共に遊び、楽しんでいる姿が見られた。そのような姿を見ることができ、とても嬉しく思った。

未来からの留学生を通して、たくさん子どもたちと直接関わり、笑顔を見ることができた。また、どうしたら子どもたちが楽しめるかを先生から助言を頂きながら、みんなで話をして講座を作ることができた。当日はもちろん、講座を作っていく過程が私たちにとって貴重な体験になったと思う。



(文責：心理領域2年 阿部綾奈)

9. カラフルボールを作ろう!!

理科領域

担当：安西智哉・吉野涼・鎌田宙・平松星子・福田嶺・竹内仁吾

〈活動内容〉

本講義では、家でも簡単に作れるものとして、まずスライムを作成し、そのあとにスライムに塩を混ぜて脱水することでスーパーボールを作る実験を行った。またスライドを用いてスライムが脱水されてスーパーボールになる仕組みについて解説を行った。

〈会場準備〉

実験に使う道具類を教室に運び込んだあと、実験で扱う物質の量を調整して人数分のコップに入れていった。また発表に使うパワーポイントも生徒役、先生役に分かれて演習を行うことで最終確認を行った。

〈当日の様子〉

15 人の予定のところ実際に参加した児童の数は 14 人であった。実際に児童に作ってもらう際は、保護者も同伴しているためか、最初から作り直しになるような失敗をしたような児童は出てこず、二個目を作る児童もいた。

〈感想〉

実験の準備では、中々全員が集まれる時間が無かったため、前日まで準備でドタバタしたが、どうにか人に見せられる状態にすることが出来て満足している。スライドの説明では、小学生にも原理がわかるように工夫してスライドを作成した。また私たちが実際にスーパーボールを作る時は、上手く丸められずに失敗する者もいたのに、小学生たちはしっかり完成させていて、その呑み込みの速さに驚かされた。しかしスライム作りをしたことがある児童も複数いたため、つまらなさそうにしている児童が一部見られたのが今回の反省点である。

またスライムを扱う題材ということもあり、児童や保護者の興味を引く目的で、ドラクエのスライムのグッズを見せる工夫をしたのだが、あまり知らないという反応をされてショックを受けた。



10. 夢化学 21 in Kagawa

理科領域

夢化学 21 in Kagawa は日本化学会中国四国支部が主催となって行われた行事で、化学の啓発と化学産業の社会への貢献の理解促進を目的として 1993 年から実施されているキャンペーン事業です。

香川大学ではこの夢化学 21 の行事と連携して毎年開催してきました。香川大学の学生が主体となって夢化学 21 のブースで行うオリジナルの実験や学生が考えた実験を準備してきました。しゃぼん玉の実験やぷにぷにボールの作成などを例年の開催で実施してきました。

今回の未来からの留学生では、磁石につく不思議な液体（磁性イオン液体）の作成とぷにぷにボールすくいの中の二つのブースを用意しました。今回は事前に申し込みをした前半 7 名、後半 7 名の合計 14 名の児童が参加してくれました。磁性イオン液体の作成実験は、昨年度のおもしろワクワクサイエンス展で使用した磁性イオン液体の作成キットを基盤として児童一人一人が作成できるように個別にキットを配布しました。キットの作成の前に、事前に用意した紙芝居を用いてイオンや今回作る磁性イオン液体についての説明を行いました。実験では、うまく作成できる子、失敗してしまう子がどちらもいたため、学生が子どもたちの様子をしっかりと見てサポートできるよう対応しました。磁石で動くイオン液体の様子を、興味を持って観察する子どもたちの姿が見られました。ぷにぷにボールすくいでは、複数の色の試薬を用意することで、子どもたちが欲しい色を選んでボールをすくうことができるように配慮しました。また、ぷにぷにボールがどうやってできるのかを実際に演示しながら説明することで、ボールすくいへの関心が高まるよう工夫しました。活動後には化学の日缶バッジやクリアファイルの配布もあったため、それを持ち帰って喜ぶ様子も見ることができました。さらには、実験で使った試薬や反応に興味を持って質問してくれる児童や保護者の方もいらっしゃいました。次回開催でも子どもたちが楽しめる実験や体験を考えていきたいと考えています。

（文責：森脇ゆな）

1 1. おもしろ算数・数学教室 ～図形の変身！～

学生：太田涼聖 天満空 富村奈由 西原悠 藤井ひなた 吉川巧望

担当教員：数学領域 杉野本先生

○活動内容

本講座は主に等積変形が中心となった講義であり、前半後半連続で行い 2 時間続きの実施となった。講義開始後、面積が等しい（子どもたちには伝えずに）三角形と長方形を見てもらいどちらが大きいのかという疑問を投げかけた。そしてその予想が正しいのかを画用紙を切ったり組み替えたりして確かめるという形で等積変形を体験してもらった。一つの図形から異なる一つの図形に変形させる問題、大きさが異なる二つの正方形を一つの正方形に変形させる問題を解いてもらった。教室後方には、すでに切られてあるパネルを用いて考えられるヒントコーナーを設置した。



○反省・感想

本講義はで扱う問題は難易度の高いものが多い。①、②の問題は導入で扱う予定であったが授業開始前から考えあつという間に解いている子どももいた。

しかし、③以降の問題では苦戦する子どもが増えていきヒントコーナーへ向かう生徒が増えていった。ヒントコーナーを見ないで解きたい子どもは試行錯誤を重ねるため人数分以上の色画用紙が必要となった。



難易度が高まるにつれて、保護者の方々も積極的に参加していただき、子どもたちと共に悩みながら取り組んでいただけたように感じた。また、パネル通りに切ることに苦戦していたため、もっと手助けできるように、我々の理解度も上げていかなければいけないと感じた。子どもたちが興味津々で積極的に取り組む姿を見て、教育としての魅力を再認識するとともに、自分たちがこれから高めていく必要がある課題が明確となる良い機会だった。

代表：数学領域 吉川巧望

12. バルーンアドベンチャー

担当学生：泉ひかる・大西紗世・大矢安莉・小野坂怜音・加地結花・菊池陽向・島田愛琉
白井愛希・高崎恭嘉・多田友海・新田莉子・藤原悠・村岡実歩・山下紗英・小林あい

担当教員：特別支援教育領域 小方朋子先生

未来からの留学生で、普段出来ないような体験を子どもたちにしてもらいたい・子どもたちに自分の力で出来たという喜びを感じて欲しいという思いでバルーンアートを開講した。子どもたちのご兄妹やご両親も参加してくださり、盛況のうちに終えることが出来た。

バルーンアートを行うにあたって特に工夫した点が2点ある。

1 点目は、難易度を初級・中級に分けてバルーンアートに取り組んだことである。徐々に難易度をあげることで、子どもたちがバルーンアートに対して難しさを感じることなくバルーンアートに取り組むことが出来ると考え、実施した。

2 点目は、子どもたちに自分の力で出来たという喜びを感じてもらうために大学生が必要に応じたサポートを行ったことである。バルーンを膨らます作業に苦戦している子どもには、大学生がバルーンを膨らました状態からスタートさせ、バルーンをねじって対象物を作ることがメインの活動となるようにしたり、子どもたちの進捗具合によって1つのテーブルにつく大学生の人数を変更したりした。また、子どもにバルーンアートの作り方を教える際に、言葉だけでの説明だけでなく、実際にバルーンを用いながら説明するなど、子どもたちの困りごとに合わせた臨機応変な対応を行うことが出来た。

活動の最後には、子どもたちにバルーンで作った花のブレスレットをプレゼントした。未来からの留学生に参加してくれた感謝の気持ちを子どもたちに伝えたいという思いから大学生が一つ一つ丁寧に作成した。全ての活動を終えた後には、プレゼントしたブレスレットや子どもたち自身が作成したバルーンを手いっぱい抱えて嬉しそうに持ち帰る子どもたちの姿を見ることが出来た。

また、バルーンを持ち帰る際には作成したバルーンで周りにいる人に危害を加えることがないようにするというこも子どもたちに伝えた。

未来からの留学生は、大学生にとって、子どもたちと関わる貴重な機会となり、子ども理解を深めるきっかけともなった。また、未来からの留学生に向けた準備を通して領域内の団結力も高まったように感じる。

(文責：特別支援教育領域二年生 小林あい)



1 3. 世界に一つだけの新しい動物を作ろう

美術領域

担当学生：石井麻織・高井陽介・藤原じゅな・森脇由子

参加学生：矢野颯大・神原みちる・千代樵辰樹・浦野りな

担当教員：尹智博先生・古草敦史先生

本講座は、モダンテクニックという技法を用いて、子どもたちの感性と自由な発想を作品化することと、モダンテクニックという技法を知ってもらうことを目標に開講した。

モダンテクニックとは、絵の描写だけではなく、偶然できた色や形を利用し、表現する技法のことである。多様にあるモダンテクニックの中でも、時間内に絵の具が乾くという点から「吹き流し、ろう染め、霧吹き」を選択した。私たち自身が前提としていたことは、実践する中での子供たち自身の気づきを尊重するということだ。

前半は、「吹き流し、ろう染め、霧吹き」の三つの技法の説明をした。まず、完成された「吹き流し、ろう染め、霧吹き」の見本から作り方を推測してもらい、対話と実践を織り交ぜながらクイズのようにして説明を行った。その後、子どもたち全員に技法の体験をしてもらった。偶然ではあったが、時間で区切ったことが功を奏し、とにかく絵の具をのせてみようとして試みている子どもたちの姿を観察することができた。

後半は前半作成した三枚の紙をコラージュし、新種の動物を作ってもらった。その上でただ一つだけ「台紙からはみ出るくらい大きな動物を作る」というルールを定めた。また、悩んでいる子どもたちへの手立てとして、2つのヒントボックスと予備の紙も置いていた。しかし、子どもたちの発想力は素晴らしく、ほとんど予備の紙を使用することはなかった。また、はじめは紙を切ることに戸惑っていた子供も最後には台紙をはみ出した作品を完成させていたことに驚いた。

最後には、黒板に貼り、鑑賞会を行った。子どもたちの個性あふれる作品が集まり、圧巻だった。その中から、数人に発表してもらった。卵から彼女のオリジナルの恐竜と彼女の弟を模したアヒルのような動物が誕生する瞬間を作ったと発表してくれた。

「未来からの留学生」を終えて、はじめは様々な環境の中から来場してくれた子どもたちが活動を通して打ち解けている姿や、楽しそうに活動に参加してくれている姿を見て達成感を感じた。そして、今後の活動への後押しとなったと感じる。



14. 飛ぶタネで遊んでみよう！

理科領域学生

担当学生：中島慶子・蓬莱美優・清水綾香・山崎未結

担当教員：篠原先生

本講座では植物のタネが飛ぶ姿や形を見て、なぜタネは飛ぶようになっているのか、植物の繁殖方法など参加者の方々に少しでも興味や関心を持っていただくことを目標に、折り紙で飛ぶ植物のタネを作成した。募集人数より参加者は少なかったが、それにより私たち大学生が子ども一人につき時間を長くすることが出来た。親子で楽しむ講座に出来たと感じている。



折り紙はすべて切って子どもたち一人一人に分けて準備しておき、植物の種類ごとに色分けもして分かりやすいようにした。作る工程で難しいところもあったので、写真のように前で大きい折り紙を用いて説明した。参加した小学生の学年にばらつきがあったため、時間配分を考えるのに苦戦したが、本番ではサポートしながら上手く時間配分を調整することができた。

折り紙で作ったタネの模型が完成したら、実際に飛ばして、そのタネの飛び方を観察してもらった。面白い飛び方をするタネを取り上げたため、親子そろって喜んで何度も飛ばして遊んでくれていた。子どもたちに授業をし、間近で楽しんでいる姿を見ることができたのは、とても貴重な経験だったと感じる。今後の活動にもつなげ、より学びを深めていきたいと考えている。



今回は6つの植物を取り上げて講座をした。子どもたちに馴染みのある植物もあれば、馴染みのない植物も取り上げたため、一つ一つの植物の説明をしてから折り紙でタネを作るようにした。実際の植物の画像を見せたり、「この植物知ってる人～？」などの問いかけをしたりして、積極的に子どもたちが参加できるようにした。



(文責：理科領域2年生 山崎未結)

15. 固まる樹脂で「アクセサリ」を作ろう

担当学生：藤田祐也・平尾歩那美・羽生直樹・山田未紗

担当教員：技術領域 黒田勉先生

本講座は、固まる樹脂（レジン）を使って、参加者の方々にモノづくりの楽しさを体験してもらい、興味・関心を持っていただくことを目標に開講した。この世に一つしかないアクセサリを作り、参加されたほとんどのご家庭が楽しんでくださり、盛況のうちに終えることができた。

最初にレジンについて子ども達に非常に分かりやすいように説明し、今回の作業内容や注意事項を詳しく伝えた。最初の説明の時だけでなく、作業を開始する際にも再度注意を呼びかけることで、安全・安心に留意した講座となるよう心掛けた。

初めて行う内容の講義だった為、上手に作れる方法や必要な材料の数、講座の進行スピードなど、考えなければいけない所がとても多かった。説明の方法、型にレジンを注入する方法などの工夫を重ねた結果、分かりやすく、楽しんでもらえる講座にすることができた。



実際に講座を実施する際、一時間目では説明を分かりやすくする為にゆっくり話しましたが、私たちの予期せぬ誤算が発生し、終了時間が5分ほど遅れてしまった。したがって、当初予定していたアクセサリ作製後の見せ合いや互いの良い所を言い合う交流の時間を取ることができなかった。その反省を活かし、二時間目では説明を簡潔にまとめ、材料や参加人数などの管理を徹底することで、ミスを防ぐことができた。それにより、余裕をもってアクセサリを作製することができ、交流の時間も確保することができた。

「未来からの留学生」によって、子ども達が楽しむために、興味を引き、関心を持たせる方法について考え、話し合い、協力する貴重な経験を積むことができた。この経験は、今後活動の取り組む際に役立ち、新しいことに挑戦するときに必ず活かすことができると考えている。

（文責：技術科領域二年 藤田祐也）

16. 図形の不思議さ

担当学生：黒松・松本・井戸・大西・西山・前川

担当教員：数学領域 四ツ谷直仁先生

本講座は、5種類の正多面体を展開図から組み立て、面・頂点・辺の数の関係を明らかにすることを目標として開講した。

準備では、展開図を作成し、子どもたちが組み立てやすいように折り目を作る工夫を行った。また、対象者が幼稚園児から小学6年生と幅広かったため、どのように授業をすれば興味がわくのか、幼稚園児に対して足し算や引き算をどうやって理解させるのかについて話し合った。



授業の導入部分は、図形の名前の確認や身の回りにある図形を考えた。次に、5種類の正多面体(四面体, 立方体, 正8, 12, 20面体)を組み立てさせ、各自で面・頂点・辺の数を数えさせた。最後に、面・頂点・辺の数の答え合わせをして、オイラーの多面体定理(面の数+頂点の数-辺の数=2)について子どもたちに分かるように説明した。開講当初は、幅広い年齢の子どもたちが、授業に興味を持ってくれるか、立体を作れるか不安に感じていた。しかし、ほとんどの子どもたちが前を向いて授業を聞いてくれており、また授業後には図形の面と頂点の数の関係について質問してくれた子どももいた。立体を作るときも保護者と協力しながら作っていた。うまく作れていない時やどのように組み立てるか悩んでいる時に、私たち大学生が補助に入り手伝うこともあった。集中力の問題で幼児はやはり途中から授業に参加できなくなったこと、図形の作成に想定していた20分より長い30分かかった部分が今後の課題点として挙げられる。もっと様々な年齢の子どもたちの目線になって授業や活動を考えることで、より改善が出来ると思う。解決策の一案として幼児向けに、なぞると立体の絵が描けるプリントを作れば、幼児も理解できなくても図形に触れる機会が増えると思う。



今回の講座を通して、自分たちで計画することや授業を行うことの難しさを感じた。また、保護者と子どもの関わり方の違いや難しいことをする際に子どもたちに対してどのような支援が必要か深く考えることが出来た。今後の実習などで子どもたちと関わる時には、今回の経験を様々な形で生かしていきたい。

(文責：数学領域二年生 西山聡太)

17. 折り紙マンとゆかいな紙々

学生 相賀・上田・門谷・坂口・高岡・吉本

担当教員 数学領域 高野先生

◎内容

・事前申し込みで、児童と保護者を10組招き、45分の講座を開いた。

・本講座では資料を見ながら折り紙をうまく折ることと、ひと裁ち切りで図形を切り出すことを目標とした。

・事前準備としていくつかの図形のひと裁ち切りを行い、それらを教室のカーテンに貼ることをした。また、図形の手順が書かれた資料を用意した。

・当日の流れははじめに全員共通で星のひと裁ち切りをし、その後、教室の周りに貼ってある図形の中から選び、資料を参考にひと裁ち切りをした。

・折り紙マンは始めは普通の男性だが、身体に折り紙を貼ることで折り紙マンになっていくという設定にしてみた。子供たちが切り抜いた図形を身体に貼ってもらうことで最後には折り紙マンになることが出来た。



◎反省

事前準備でひと裁ち切りをした際に学生自身がうまく形を切り出すことが出来ない時があったが当日はその反省を活かし、特に折り曲げる向きや手順の中で難しいところに注意して教えるように意識した。その結果、子どもたち全員が上手に形を切り出すことが出来た。本講座には小学校低学年から中学年の子供たちが参加していたが、学年が上がるとともに理解度や作業スピードも異なったため、難易度の異なる図形をいくつか

用意していて良かった。また保護者の方も一緒にひと裁ち切りをしてもらったため、子どもと一緒に悩みながら楽しく取り組んでいたのが良かった。しかしながら、10組の申し込みだったにも関わらず、当日出席が3組だったことが残念だった。

◎感想

子供たちはひと裁ち切りが成功し、図形が完成していることが分かれると「出来ている！」「すごい！」と笑顔で言っていた。その姿を見てとても嬉しい気持ちになった。学年が違うことによって出来るのがかなり違うことを改めて知ることが出来、子ども理解をより深めることが出来た。今回の活動を通して学生同士の交流を深められ、とても充実した時間になったと感じた。

代表 数学領域 吉本幸未

18. マシュマロの不思議

担当学生：田村誠亜、戸上由美子、河内愛果、枝川姫菜、
中越美優、西江萌生、吉本紗英、平田優里菜、細谷真子

担当教員：家庭領域 畦 五月先生

本講座は、多くの人が食べたことのあるマシュマロがどのようにして作られ、なぜふわふわしているのかについて児童が興味を持ち、実験で楽しみながら学んでもらうことを目標に開講した。講座では、児童がわくわくしながら実験に取り組む様子が見られた。また、終了時には「家でまた作って食べたい」という感想もあり、マシュマロへの興味・関心が深まったのではないかと感じた。



講座の前半では、マシュマロの材料であるゼラチンの性質とその役割を理解してもらうための実験を行った。実験準備係が、タイミングに気をつけながら、用具・材料の出し入れを行い、スムーズに授業を進めることができた。

後半は、大きな問いであるマシュマロがふわふわである理由や常温でも溶けない理由を説明した。このメカニズムは児童には大変難しい内容であった。そのため本講座の準備時も、どのような図を作り、その図を使ってどのように説明するかについて熱心に話し合った。説明の仕方を何度も試行錯誤した部分であった。本番では児童の表情や発言から理解度を確認し、ゆっくりと説明した。その結果、ワークシートの今日の講座で学んだことや感想欄には、マシュマロのメカニズムについて書くことができていた。

この活動を通して児童に教える喜びや、児童と教員のやり取りを通して学びを深めていく楽しさ、同時に授業を行う大変さを学んだ。領域の皆で協力し、イベント運営を終えたことに大きな達成感を感じることができた。これからもどうやったらより楽しく、より深い学びを児童に届けられるのか考え、自分の指導力を磨いていきたい。

(文責：家庭領域2年生 戸上由美子)

19. おはなしのくに 2023

担当学生：教育領域学生 担当教員：櫻井 佳樹先生

本講座は幼児・小学校低学年を対象とし、レクリエーションやダンス、劇等を通し子どもたちに楽しんでもらうことを目標に開講した。子どもたちに楽しんでもらうにはどうしたらいいだろう、理解しやすい内容にするにはどうしたらいいだろう、と領域のメンバーで何度も話し合いを重ね練習を繰り返した。当日、実際に子どもたちが楽しんでいる様子を見ることが出来、我々学生も自然と笑顔になり、会場全体が温かい雰囲気包まれた。子どもの楽しそうな姿はこれほどエネルギーをもらえるのか、と実感した瞬間であった。



冒頭でも説明したように、おはなしのくにではレクリエーション、ダンス、劇の3つを行った。まずはレクリエーションだ。ゲーム内容は曲に合わせて手拍子をするというものだ。『1つ、2つ、3つ〜♪』『大きな拍手小さな拍手〜♪』というように壇上に登っている学生の指示の通り曲に合わせて子どもたちが手拍子をするというものである。学生が子どもたちの側にいきサポートをしつつゲームを行った。真剣な表情で一生懸命手を叩いている子、気にせず楽しそうに自由に手拍子している子、それぞれのやり方で楽しんでいる様子だった。

次は劇である。劇では、『クレヨンのかくくん』という絵本を題材にして、約15分間の劇を行った。本番の為に、小道具班や大道具班と協力して、幼児や児童が楽しめるような仕掛けを作成した。例えば、子どもたちが、ひと目で見て分かりやすいように、小道具を大きく作成したり、子どもたちと一緒に歌う場面があったりした。学生も子どもたちと一緒にになって、劇を楽しんでいた。最後はダンスだ。劇の前に子どもたちにダンスの振り付けを教え、劇終了後に練習したダンスをもう一度みんなで踊る場面を設けた。曲は『サンサン太陽』だ。学生の真似をしながらも大きく手を広げ一生懸命踊ってくれている子どもたちの姿をたくさん見ることが出来た。幼児や児童に限らず、保護者の方、高校生も一緒に踊ってくれて会場全体が1つになった時間であったと思う。

(文責：教育領域2年 勝浦弓葵、酒巻美々)



20. 運動あそびの学校

担当学生：石川明奈、梅田小波、佐野亜理沙、福井健太、藤目尚大、石原愛
小林賢寛、篠原颯斗、下本真希、玉井綾乃、土居ひなた、吉川純平、武田夢佳

担当教員：体育領域 上野 耕平先生

本講座では、幼稚園児から小学生までの異学年の交流を、運動を通じて楽しみ、深めることで、体をうごかすことの楽しさを子供たちに理解してもらうこと、その一方で、子供の安全面に最大限の配慮をし、怪我人なく終わることを目標として開講した。事前に発表された参加人数より当日の参加人数がかなり減っており、予定とは異なる動きとなっていたが、全員が臨機応変に対応し、何とか子供たちに楽しんで貰え、また、怪我人が出ることなく、終わることが出来た。



講義内容としては前半は、「こおりせんおに」を行った。体育館の線の上でこおり鬼をするという、ルールは簡単だが、意外にも難しいミニゲームを行った。また、走るだけではなく、障害物を設置することで、複雑な動きも組み合わせた。この工夫により、結果的に小学校高学年の児童と幼稚園児が混在している中で、特に困難なく実施することができた。保健体育科領域の学生が一つ一つの障害物の傍で待機し補助を行ったり、実際に鬼になったりすることで、円滑に進めることができた上、全員が子供たちと関わる事ができた活動となった。

後半では、「ころころシューターズ」というボールを使ったミニゲームを行った。決められた線からボールを転がし、コーンの間にいれる攻撃チームと、コーンの間にボールを入れられないように止める、守備チームとに分かれる。1分間で攻守交替をして、点数を入れ合うというゲームだ。子供達の全力で取り組む姿を見ることが出来た。前半よりも後半の方がボールを使っている



面や、競争という面で、子供たちにとってはかなり好評だった。

未来からの留学生を通して、子供と活動することの楽しさと難しさを経験したと共に、運動能力についても理解でき、教師になるために将来的に役立つという声が上がった。今回の活動は、私たちにとって子供理解についてこれを機に深く考える大きな経験になった。

2 1. 教育学部 SDGs 紹介

担当教員：寺尾 徹先生 高木 由美子先生

SDGs（持続可能な開発目標）は、国際社会における多様な課題に対する意識の啓発と、その解決に向けた行動を促すものであり、地球規模の課題への挑戦であるとともに、国や地域が直面している社会的課題の解決に寄与するものです。香川大学では「SDGsの取組の強化」を重要施策の一つとして掲げ、地域の多様な環境や資源の保全・活用や地域の課題を探索し、持続可能な社会の創造につながる取組を推進してきました。2021年12月には「SDGs推進タスクフォース（TF）」を設置し全学的な推進体制で活動に取り組んできました。

教育学部も、その活動に積極的に参加し、教育学部の教職員、学生、附属学園のSDGsに関する取組のホームページ上で公開に協力してきました。さらに、SDGs教育プロジェクトとして、教育学部の教職員、学生、附属学園が行っているSDGs教育に関する活動を資金援助したり、独自のHPやポスターなどで広報するなど様々な後方支援をしたりしています。

今回の未来からの留学生でも、自由参加型講座として、未来からの留学生に参加してくれている児童やその保護者、オープンキャンパスに参加してくれている高校生、そして未来からの留学生を盛り上げている教育学部学生にその活動を紹介する取り組みとして、香川大学教育学

部のSDGsの取り組みを紹介し、SDGs教育プロジェクトのロゴが入った缶バッジを配布しました。多くの子どもと保護者が訪れてくれ、来訪の人数は159人になりました。多くの子どもは学校でSDGsについて学んでおり、教育学部で行っているSDGsの取り組みにも興味をもってくれました。教育学部の学生としてこの活動が今後ますます広がっていくといいなと思っています。



香川大学 SDGs ホームページ

https://www.kagawa-u.ac.jp/sdgs_action/

（文責： 井上陽稀）

22. 紙コップワールド

担当学生：幼児教育学生 担当教員：吉川 暢子先生

本講座は自由講座として415教室前のスペースで行われた。当日はたくさん子どもたちや保護者の方々が参加してくださり、幼児から大人まで幅広い年齢の人が紙コップを使った遊びを楽しんでいた。

《担当学生のコメント》

- ・紙コップを重ねて床から天井まで繋げたいという姿がよく見られた。紙コップという小さなものが自分より大きくなることに面白みを感じていると思った。
- ・崩れる音がしたら紙コップを確保するために走っていく人が多くて面白かった。
- ・保護者も紙コップの数や学生が作った大きな作品に驚いており、保護者と子どもが共に紙コップのタワーを作っている様子も見られた。



紙コップという一つの教材には、様々な遊び方があり、ただ紙コップを重ねて何かを作るだけでなく、他の友達と紙コップを繋げて大きな輪を作っていたり、紙コップで丸を作ってその中に紙コップを玉入れのようにして入れて遊んだりする子どもたち姿が見られた。紙コップの遊び方は大人が思っている以上にバリエーションが豊富である。また、子ども同士や子どもと大人が繋がる遊びへと発展している場面も多く見られた。この講座は誰でも参加できる講座だったので、他の講座に参加した人も嬉しそうに参加されていた。幼児から小学生、大人まで楽しむことのできた紙コップワールドは是非来年にも引き継いでもらいたい。

幼児教育コース3年 谷口柚風



23. 太陽黒点を見てみよう

担当教員：松村 雅文先生

コロナ禍のため、2020 年～2022 年度、本講座（太陽黒点を観察する自由参加型の講座）は、開催していなかったが、今年度は再開することにした。しかしながら当日は天気が悪かったため、やむなく中止とした。天気がよければ、下の写真のように、太陽投映板を用いた方法で太陽面を観察する予定であった。



【図】 研究交流棟屋上にある天体ドーム内の様子（2019 年度開催時の写真）

望遠鏡を通した太陽光は、太陽投映板に像を結ぶ。右下の太陽投映板上の白い円が太陽である。この方法で、数名ずつ、太陽面の観察ができる。

当講座を実施していた 2020 年以前の数年間は、太陽活動が平穏な時期（極小期）であったため、太陽の表面が見えても、黒点はほとんど見られないことも多かった。太陽の黒点数は約 11 年周期で増減をしており、今は比較的、黒点が多い時期にあたっている。

本講座は、天気によって影響され、如何ともしがたい面はあるが、次回、好天を期待したいと思っている。

（文責： 教員 松村雅文）

24. 模型で見る四国・香川の鉄道

担当教員：黒田 勉先生

協力学生：教育学部学校教員養成課程，技術教育3・4年生

本年度も引き続き，8号館811講義室で行った。

本年度は、残念ながら、電気系統のトラブルで1車両しか動かせなかった。



上図は811講義室の入口を写したもので，また，右図は8号館の入口にポスターを掲示し他様子が，本講座の存在のアピールを図っている。



自由参加型の展示ということで特に人数をカウントしていないが，ひっきりなしに参加者が訪れるということになった。